

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	1470600915
法人名	特定非営利活動法人 うえん会
事業所名	グループホーム銀の鈴
訪問調査日	平成19年9月15日
評価確定日	平成19年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470600915
法人名	特定非営利活動法人 うえん会
事業所名	グループホーム銀の鈴
所在地	240-0035 横浜市保土ヶ谷区今井町880 (電話) 045-355-3255

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年9月15日	評価確定日	平成19年10月31日

【情報提供票より】(平成19年8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての、地下1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(405,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	9 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	70 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南六ツ川クリニック、木曽団地歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは横浜市保土ヶ谷区、JR保土ヶ谷駅からバスで20分位のところに位置する。建物は3階建てで1Fが玄関、エントランスロビー、事務室、職員の休憩室となっており、2F、3Fに2ユニットのグループホームが展開されている。経営はNPO法人うえん会を設立し、このNPO法人である。以前、青葉区にあったホームをこちらに移転した形で、生活していたご利用者さん全員と一緒に移転してきた。その時の家族との繋がりが強く、縁が強くあり、得た縁(えん)が有る(う)をNPO法人うえん会の名前の由来となっている。H16.9.6に自発的に結成された家族会が統括責任者を公私共にバックアップしてくれている。家族との絆が太いことはこのホームの最大の財産である。建物所有者が地元の人であり、地域との親近性がある為、地域との友好的な関係が維持されている。介護保険法の改訂を真摯に受け止め理念に「地域の一人として生活できる介護支援」を追加し、ケアの方針「心のケア」実践に向け、利用者さん最優先の姿勢でケアを展開している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、特にして記事事項は無かったが、開所以来取り組んでいる職員の教育について、更に充実を図る展開をしている。資格手当を設定し、職員の将来をも見越して職員に、1つ上の資格取得にチャレンジさせている。時間(ローテ)、費用等も考慮しているので向上心のある職員が育てている。職員はチャレンジで勉強することにより、スキルアップが図れるとともに「心のケア」が実現できるように成長してきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、新フォーマットになったので、職員に対し、新フォーマットの説明、各自による自己評価、その結果を持ち寄ったミーティングを経てホームとしての自己評価を作成した。特に「健康」「精神」「共同生活」の3つの柱については今回の自己評価や介護計画に反映するよう意識して話し合いを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>第1回目の運営推進会議を8月27日に開催した。メンバーは自治会長、近所代表として大家さん、ご家族3名それにホーム関係者であり、それにオブザーバーとして地域包括支援センターの方が参加した。テーマはホーム概要の説明が主であったが、災害時の対応、地域ケアプラザとの交流など多岐に亘り非常に有意義であった。地域ケアプラザとの交流とは地域センターのサークル活動の発表を、ボランティアとして銀の鈴で受け入れると云ったことで、双方にメリットはあると考えられる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>青葉区にあったホームをこちらに移転した時代7年を経過する強固な家族会が統括責任者を移転等公私共にバックアップしてくれている。家族会がホームのバックボーンと云える体制は強固である。ホームのイベントはご家族との連携で実施し、ご家族は極めて協力的である。契約に際して、ご家族とは十分な話し合いを行い、例えば一人での外出などの特異的な細かい取り決めなどをおこなっているので、日頃の密な連絡と併せてご家族との行き違いは無いと確信している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホームはイベントが多く、しかもそれを計画的に、ご家族、ご近所と共催で実施している。自治会との関係も良く、敬老会へのご招待など行事への参加、ご近所の方がホームのイベントに参加などが行われ、ホームのイベント時には自治会のテント、机等を貸してくれる親密な関係が確立している。ご近所に対してはごみ出しの場所の提供、災害時の備蓄品活用の申し出などをして協力をするよう心がけている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今井町自治会の特別会員として加入、自治会主催の行事に積極的に参加、地域の皆様に花や野菜果物などの心遣いを頂きご利用様が喜ぶふれあいのある暮らしが日々出来ている。七夕祭り、盆踊り、敬老会に参加し、ゴミ収集場所を近隣に提供し敷地を含めて清掃している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	平成18年の介護保険法の改訂に合わせて理念に「地域の一員として生活出来る」の一文を追加し、積極的に地域密着に取り組んでいる。管理者は日常的に職員と共に振り返りをし理念の実践に取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今井町自治会主催の行事には積極的に参加することや、銀の鈴主催の行事には自治会と地域の皆様をご招待し参加頂いている。ホームのイベント時には自治会のテント、机等を貸してくれる親密な関係が確立している。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は過去も現在も自己評価及び外部評価の意義を十分に理解し取り組んでいる。今回、新フォーマットになったので、職員に対し、新フォーマットの説明、各自による自己評価、その結果を持ち寄ったミーティングを経てホームとしての自己評価を作成した。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議を8月27日に開催した。メンバーは自治会長、近所代表として大家さん、ご家族3名それにホーム関係者であり、それにオブザーバーとして地域包括支援センターの方が参加した。テーマはホーム概要の説明が主であったが、災害時の対応、地域ケアプラザとの交流など多岐に亘り非常に有意義であった。		地域密着と交流の1つの方法として地域でサークル活動をしている皆様に銀の鈴で発表の場にしていただき交流を図っている。ポスターを作製し地区センター、地域ケアプラザに掲示を依頼済みである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの向上や契約に係る事は相談・指導に市の担当部署に訪問している。区の保護課の担当職員さんとは定期的に訪問相談などを実施し、また銀の鈴への訪問がある。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への報告は日常的に実施している。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	銀の鈴に苦情受付窓口を設けている。かつ公的な苦情受付窓口の存在を掲示のうえ口頭でも伝えている。意見、不満があったときには管理者と職員がそれを共有し改善した後、ご家族等に成果の確認をする事で運営に反映するシステムがある。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者様個々の受け入れや信頼を大事にし、移動・配置を実施して支援を受けられるようにしている。職員の職場への根付きに努力している。代わる場合は管理者や他の職員がフォローしてダメージを防ぐ配慮している。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者(管理者)は職員を段階に応じて育成する為、年間の研修などホーム内外の計画を作成している。職員の教育について、資格手当を設定し、職員の将来をも見越して職員に、1つ上の資格取得にチャレンジさせている。時間(ローテ)、費用等も考慮しているので向上心のある職員が育っている。職員はチャレンジで勉強することにより、スキルアップが図れるとともに「心のケア」が実現できるように成長させてきている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	青葉区での活動を加えた7年間の実績をもって同業者の管理者・ホーム長・職員と交流をし相互に行き来をしている。お互いのホームの利点を学びサービスの質の向上に反映している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際の事前面接やアセスメントを重要視し、ご本人やご家族の現状を把握することで徐々に馴染めるように工夫している。体験入居制度もある。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様の持てる力を発揮できるように共同作業をする中で人生の先輩として生活の知恵や生き方を学ばせていただくことで信頼関係を築いている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご利用者の意向の把握に努めてい居る。困難な場合はケアプランの立案時にご本人、ご家族、医師、看護師、管理者、職員、必要なら保護担当者も含み検討の上、本人の意向を汲んでいる。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的にケアや課題はご本人、家族、必要な関係者と話し合った結果、毎月一回のケアプラン会議を可能な限り職員全員の参加により実施し介護計画を作成している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて計画を評価・実施し、緊急時、症状により介護計画の見直しが必要な時は現状に即した新たな計画を作成している。ご本人や家族に介護計画書のコピーを提供している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り 本人や家族の状況、その時々要望に応じた柔軟な支援をしている		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	整形外科医、糖尿病専門医、内科一般、歯科、内科所属の鍼灸師による週一回の往診がある。またご本人とご家族の希望により馴染みの受診先での医療を受けている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人やご家族・医療関係者と話し合いの場を持った結果、重度化に関わる指針を横浜市に相談し書類を提出し、重度化した場合や終末期のあり方のご本人とご家族の希望を受け付けている。		今後も個別の事例に沿って誠意を持って対応して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にご利用者一人ひとりの人格を尊重し呼称は「様」付けで敬語を使用している。本人の返答能力に応じた会話を心がけている。記録等個人情報の取扱は、事務所不在自は施錠をし、日常記録の個人カルテ類は保管庫に保管している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務を優先することなく、食事の時間や休息・入浴・散歩など一人ひとりのペースに合わせ、希望に添った日常の支援をしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物をご利用者と職員が一緒に行いご利用者の希望の食材を購入しその日の献立に使用している。食材を洗ったり包丁で刻む準備から、配膳を一緒に行い、食事を一緒に摂る。食後の片付けはご利用者の持てる力を発揮できる役割を持ち共同作業を毎食後行っている。アルコール類はご本人とご家族の希望によりお預かりし提供している。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者に入浴の希望時間を確認し、夏はシャワーを使用したり冬は就寝前に入浴をしたり一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の生きる支えである、教会での勉強会、彼岸・盆等のお寺参りなどの信仰を尊重している。ご本人とご家族の希望により選挙の投票は自由にされている。週一回の音楽療法の先生の訪問を楽しみにされている。週数回訪問される料理のボランティアさんとの関わりを楽しみにされている。散歩先でお花を頂いたり井戸端会議を気晴らしにされている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	独りで散歩に行ける方はご家族の話し合いにより自由にいつでも散歩に行く。買い物の希望があれば職員と一緒に外出する。宝くじを買いに出かける。車椅子使用のご利用者は職員が付き添って外食、公園、勉強会にでらるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることの弊害は理解しているが、家族会との話し合いの結果、家族会の希望により事故・生命の擁護・防犯の点から日中玄関に施錠をしている。ただしいつでも自由に入出入りできるように支援している。		今後も継続して検討・工夫して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には地域の人々の駆けつけと協力が得られるよう日ごろよりお願いしている。地域消防署には避難訓練の申し込みをしている。ご近所に災害時の備蓄品活用の申し出などでなどをして協力をしよう心がけている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限や疾病のあるご利用者は医師や看護師の指示により食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう支援している。必要に応じて定期的に血液検査を受けている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は絶えず清潔を心がけ、業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをしている。季節の切花・植木・観葉植物をかざり、正月の飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど季節の風習を採り入れ季節感を味わっている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時又は随時、ご利用者が家庭で使い慣れたものや好みものを持参していただき、居室で居心地よく過ごせるような工夫をしている。必要なときは居室のトイレに夜間照明を設備し、夜間にも安心してトイレを使用できるように工夫している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

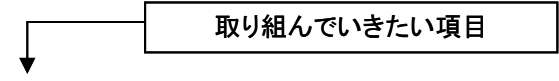
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム銀の鈴
所在地 (県・市町村名)	240-0035 横浜市保土ヶ谷区今井町880
記入者名 (管理者)	中島 友美
記入日	平成 19 年 8 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今井町自治会の特別会員として加入し、回覧板の周知により自治会主催の行事に積極的に参加したり 地元の皆様に花や野菜果物などの心遣いを頂きご利用様が喜ぶふれあいのある暮らしを日々されている。七夕祭り、盆踊り、敬老会に参加し、ゴミ収集場所を近隣に提供し敷地を含めて清掃している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日常的に職員と共に振り返りをし理念の実践に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年間の行事を年度当初に計画し(年間7~8回)家族や地域の人々に参加を呼びかけ、ご利用者の暮らしを理解してもらっている。理念に「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、理念に添って取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所とのつきあいを大切にしている。理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、日常的な付き合いが出来ている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今井町自治会主催の行事には積極的に参加することや、銀の鈴主催の行事には自治会と地域の皆様をご招待し参加いただいている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>銀の鈴敷地内のごみ収積場所を近隣の皆様に使っていたが、毎回ゴミを収集された後の片づけを銀の鈴が行うことで、地域の高齢者等の暮らしに役立っている。また敷地内道路を清掃している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は過去も現在も自己評価及び外部評価の意義を十分に理解し取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>第一回運営推進会議を8月27日に開催した。運営と介護の質の向上を目指しより地域密着のため、そこでの意見をサービス向上に活かしていく。</p>		<p>地域密着と交流の1つの方法として地域でサークル活動をしている皆様に銀の鈴で発表の場にしていただき交流を図る。ポスターを作製し地区センター、地域ケアプラザに掲示を依頼済み。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>サービスの向上や契約に係る事は相談・指導に市の担当部署に訪問している。区の保護課の担当職員さんとは定期的に訪問相談などを実施し、また銀の鈴への訪問がある。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、成年後見制度を活用しているご利用者がいる。申請中のご利用者も、活用にあたりご家族からの相談に対応したり、弁護士を紹介している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>講習会や学習会に参加している。特に事業所内では虐待を見過ごす事の無いよう、注意を払い防止に努めている。</p>		<p>厚生労働省が平成13年に発行した「身体拘束ゼロへの手引き」を参考にしている。</p>
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前より十分に時間をかけて説明を行い契約に至っている。不安、疑問は契約時に限らず、いつでも相談を受けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に貼っている。苦情等あった時は、記録をし運営に反映されるシステムになっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等への報告は日常的に実施している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	銀の鈴に苦情受付窓口を設けている。かつ公的な苦情受付窓口の存在を掲示のうえ口頭でも伝えている。意見、不満があったときには管理者と職員がそれを共有し改善した後、ご家族等に成果の確認をする事で運営に反映するシステムがある。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを実施する中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者、事務兼介護職員は、どのような時間帯でもご利用者や家族の状況に対応できるよう待機している。また職員の確保が必要な時は、休日出勤、時間外出勤等により調整し、報酬の対象としている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者様個々の受け入れや信頼を大事にし、移動・配置を実施して支援を受けられるようにしている。職員の職場への根付きに努力している。代わる場合は管理者や他の職員がフォローしてダメージを防ぐ配慮している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者(管理者)は職員を段階に応じて育成する為、年間の研修などホーム内外の計画を作成している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	青葉区での活動を加えた7年間の実績をもって同業者の管理者・ホーム長・職員と交流をし相互に行き来をしている。お互いのホームの利点を学びサービスの質の向上に反映している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム内においては、休憩室を確保し独りになれる場所を作っている。コーヒー抽出機、TVを設置する等ストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格試験への挑戦、看護学校への通学、研修参加など、管理者が職員個々の努力や実績により手当(報酬)を提供し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談では、ご本人に事前に面接し、困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族による入居相談のとき、何度でも相談を受け十分な時間をかけて、困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば急にグループホームへの入居を必要とされた場合、銀の鈴が満床の時は、他のグループホームを紹介する配慮をしている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際の事前面接やアセスメントを重要視し、ご本人やご家族の現状を把握することで徐々に馴染めるように工夫している。体験入居制度もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様の持てる力を発揮できるように共同作業をする中で人生の先輩として生活の知恵や生き方を学ばせていただくことで信頼関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護計画を作成のとき、「何でも処方箋」をご家族に提示しご本人を共に支えあう関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	しっかりと信頼を築けている場合は、その信頼を維持できるよう、また何らかの事情で信頼が築けていない場合は、時間と距離を置き、管理者や職員が各々のご利用者を代弁することで、家族との信頼を取り戻せる配慮をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会、外出は自由とし、いつでも訪問できる支援をしている(故郷訪問をされている)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業やレクリエーション、音楽療法など一緒に行う中で、ご利用者同士がいたわり合い、支え合っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	すでに退所されたご家族より、時候の手紙や葉書、心遣いを頂くことが度々ある。また、行事に参加くださる事もある。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご利用者の意向の把握に努めてい居る。困難な場合はケアプランの立案時にご本人、ご家族、医師、看護師、管理者、職員、必要なら保護担当者も含み検討の上、本人の意向を汲んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを繰り返し実施することで、生活歴や生活環境など個々の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画書を定期的、または緊急に必要に応じて作成し、管理者、職員、ご家族も含め、現状を総合的に把握している。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的にケアや課題はご本人、家族、必要な関係者と話し合った結果、毎月一回のケアプラン会議を可能な限り職員全員の参加により実施し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて計画を評価・実施し、緊急時、症状により介護計画の見直しが必要な時は現状に即した新たな計画を作成している。ご本人や家族に介護計画書のコピーを提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを日勤、夜勤に分けて記録し、かつ大切なことは申し送りノートや管理者からの申し送りノートに記録し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り 本人や家族の状況、その時々要望に応じた柔軟な支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の社会福祉協議会のボランティアさんや、地区センターの趣味クラブからのボランティアさんにより、ご本人の意向や必要性に応じた交流、また災害時に救助等手助けを頂く部署(地元消防団、家庭防災員)には協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議に地域ケアプラザさんよりオブザーバーとしての参加がある。また地域の介護支援事業所のケアマネジャーを訪問しパンフレットを配布し、銀の鈴への訪問を依頼している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を定期的に(2ヶ月に1回)開催する中で、地域包括支援センターとの協働を進めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	整形外科医、糖尿病専門医、内科一般、歯科、内科所属の鍼灸師による週一回の往診がある。またご本人とご家族の希望により馴染みの受診先での医療を受けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医(医学博士)は厚生労働省の定める「かかりつけ医認知症対応力向上研修(横浜市の研修)」を終了し、いつでもご利用者に関することを教示いただき診断、治療の支援がある。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が准看護師である。重度化にかかわる指針(重度化、終末期)で週二回訪問の看護師と契約をし、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合はこまめに面会に行き、ご本人を励まし安心して過ごせるよう努めている。病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人やご家族・医療関係者と話し合いの場を持った結果、重度化に関わる指針を横浜市に相談し書類を提出し、重度化した場合や終末期のあり方のご本人とご家族の希望を受け付けている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に関わる指針を整備した際に、今後の変化に備えての希望をご本人、ご家族より書面にて受け付け署名、捺印をもらっている。また協力医療機関との間に、利用者が重度化、看取りの必要が生じた場合、職員と医師が協力し対応する事との契約を締結している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護保険の基本方針である自宅への支援は何件か実現している。その時はご本人の意向もあり喜んでお送りする。ただし、ご家族の意向で(経済的事情)で、他の施設に入居される場合などは、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替え先の施設にも直接連絡を取り、サマリーを提出して、ダメージを防ぐことに努めている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	常にご利用者一人ひとりの人格を尊重し、呼称は「様」付けで		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にご利用者一人ひとり的人格を尊重し呼称は「様」付けで敬語を使用している。本人の返答能力に応じた会話を心がけている。記録等個人情報の取扱は、事務所不在自は施錠をし、日常記録の個人カルテ類は保管庫に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事、散歩、外出、買い物、嗜好品(アルコール類)など日常生活でご本人の思いや希望を表せるように働きかけたり、自己決定を優先できる様、支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務を優先することなく、食事の時間や休息・入浴・散歩など一人ひとりのペースに合わせ、希望に添った日常の支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	5年以上馴染みの理容師さんによる月1回の訪問理容がある、希望に応じて、パーマ、髪染め、顔そりなどしてもらっている。長年かかりつけの美容室へ出かけられるご利用者もおられる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物をご利用者と職員が一緒に行いご利用者の希望の食材を購入しその日の献立に使用している。食材を洗ったり包丁で刻む準備から、配膳を一緒に行い、食事を一緒に摂る。食後の片付けはご利用者の持てる力を発揮できる役割を持ち共同作業を毎食後行っている。アルコール類はご本人とご家族の希望によりお預かりし提供している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ビールをご家族よりお預かりして、ご本人の希望に応じて提供している。季節に応じて、梅ジュース、赤しそジュースをご利用者様と一緒に作り、日常的に楽しんでいることと、ご家族他、訪問者に振舞ってご馳走している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の尊厳を守るよう各居室内にトイレを設置した。排泄のパターンや習慣を踏まえ、言葉で表現できない方は表情や行動で排泄のタイミングを捉えている。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者に入浴の希望時間を確認し、夏はシャワーを使用したり冬は就寝前に入浴をしたり一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夏は冷房で身体を冷やしすぎて、疲労や筋肉がこわばらないよう配慮し、冬は暑くて汗をかき風邪を誘引しないよう、外気温と室内温度を考慮している。自然の風や採光の取り入れにも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の生きる支えである、教会での勉強会、彼岸・盆等のお寺参りなどの信仰を尊重している。ご本人とご家族の希望により選挙の投票は自由にされている。週一回の音楽療法の先生の訪問を楽しみにされている。週数回訪問される料理のボランティアさんとの関わりを楽しみにされている。散歩先でお花を頂いたり井戸端会議を気晴らしにされている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいや、ご家族の希望により本人が持たれて管理されている方と、管理者が預かっている方がいる。ご自分で宝くじや目薬を買われるご利用者もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	独りで散歩に行ける方はご家族の話し合いにより自由にいつでも散歩に行く。買い物の希望があれば職員と一緒に外出する。宝くじを買いに出かける。車椅子使用のご利用者は職員が付き添って外食、公園、勉強会にでらるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	実家がお寺だったご利用者様は、彼岸、盆、命日にはお寺参りに行く。故郷訪問で旧知の人々にご家族同伴で会いに行く。子供さんの別荘へ外泊する方、家族さんの迎いで自宅へ外泊する方もいる。教会の勉強会に参加される方もいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと申し出があったら、遠距離であってもいつでもかける。旧知の方からの手紙、葉書のやりとりもされ、ご本人がポストに投函しに行っている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、外出、外泊に制限は設けていない。いつでも長期間の滞在、泊まりも自由です。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアの実践に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることの弊害は理解しているが、家族会との話し合いの結果、家族会の希望により事故・生命の擁護・防犯の点から日中玄関に施錠をしている。ただしいつでも自由に入出りできるように支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、定期的に急変や事故発生時の備えのレジュメを作成し、ホーム内研修を行っている。		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には地域の人々の駆けつけと協力が得られるよう日ごろよりお願いしている。地域消防署には避難訓練の申し込みをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク対応に関する家族等との話し合いは、日頃より説明を行っている。また、介護計画も提出している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理者は准看護師であり、変化や異変時はいつでも即かけつけている。血圧、脈拍、SPO2、の測定や対処を行い、観察をこまめにし、記録をする事で、速やかに情報を共有し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。また管理者(准看護師)は摘便対応をし、その後、安静などの処置の指示を出す。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きに歯間ブラシを使うなど、毎食後こまめに口腔内の清潔を保持している。週1回訪問の歯科医と歯科衛生士に口腔内清掃を実施してもらい、指導を受けている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限や疾病のあるご利用者は医師や看護師の指示により食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう支援している。必要に応じて定期的に血液検査を受けている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	レジュメを作成し、毎年定期的にホーム内研修を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板や包丁の消毒を実施し、食器は乾燥機を使用、冷蔵、冷凍により食材の管理を行っている。手洗いを励行し、泡状の液体消毒石鹼や、手指擦り込み消毒液を常時使用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には年中季節ごとの花や野菜を植えることで、皆様が親しみやすく安心して出入りできるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は絶えず清潔を心がけ、業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをしている。季節の切花・植木・観葉植物をかざり、正月の飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど季節の風習を採り入れ季節感を味わっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外に木製の縁台を4台設置し、共同空間における居場所を作り、夕涼みなどで、気の合ったご利用者同士で歌を歌ったり、語り合うことができる工夫をしてある。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時又は随時、ご利用者が家庭で使い慣れたものや好みものを持参していただき、居室で居心地よく過ごせるような工夫をしている。必要なときは居室のトイレに夜間照明を設備し、夜間にも安心してトイレを使用できるように工夫している。		
	○換気・空調の配慮	居室に設置している換気設備は、換気空調には連動を合せて、換気		

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室にトイレかめることで、換気空調には清掃を旨め十分に配慮し、外気温度差は5℃までに配慮している。洗濯機置場、共同トイレなど臭気の発生しやすい場所は、絶えず排水口やパイプを洗剤にて徹底的に清掃している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、階段、共同トイレ、居室トイレには手すりを設置している。エレベーターを設置し身体機能に応じて使用している。両側に手すりのある階段はリハビリに使用しており、自発的にリハビリをされる利用者もおられる。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ご本人、家族と相談の上、散歩に独りで出たい時は、いつでも散歩に行かれている。共同作業においても生活習慣で身につけていることは、職員が側にいて見守り、混乱や失敗を防ぐ工夫と努力をしている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外周や空間を利用し、花や苗を植え、摘み取りや収穫が出来るようにしてご利用様の楽しみと活動の場として活かしている。(なす、ピーマン、ゴーヤ、トマト、キュウリ、ササギ、サツマイモ、大葉、バラ、アジサイ、ユリ)</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 毎年年度当初に行事計画を立て、一年に7～8回の行事を実施し、ご家族、ボランティア、近隣の皆様と共に楽しいひと時を過ごしている。
- 職員は資格試験に挑戦し、勉強は日々の実践と理論を重ね合わせている。
勉強の努力の結果はご利用者様、家族との信頼の一端になり得ている。
(介護福祉士11名、准看護師1名、社会福祉主事任用1名、介護支援専門員3名、看護学生1名)
など、7年間の実績で職員を育成してきた。(2年後にはヘルパー2級、無資格者を介護福祉士に育成する)
- ご利用者様(男性は姓、女性は名前)を様付けでお呼びすることに不自然さがない敬語を使える中で、ご利用者さまの孫、ひ孫さんなどの幼い方々が、当然の様に、ご利用者様を様付けで呼んでくださる。